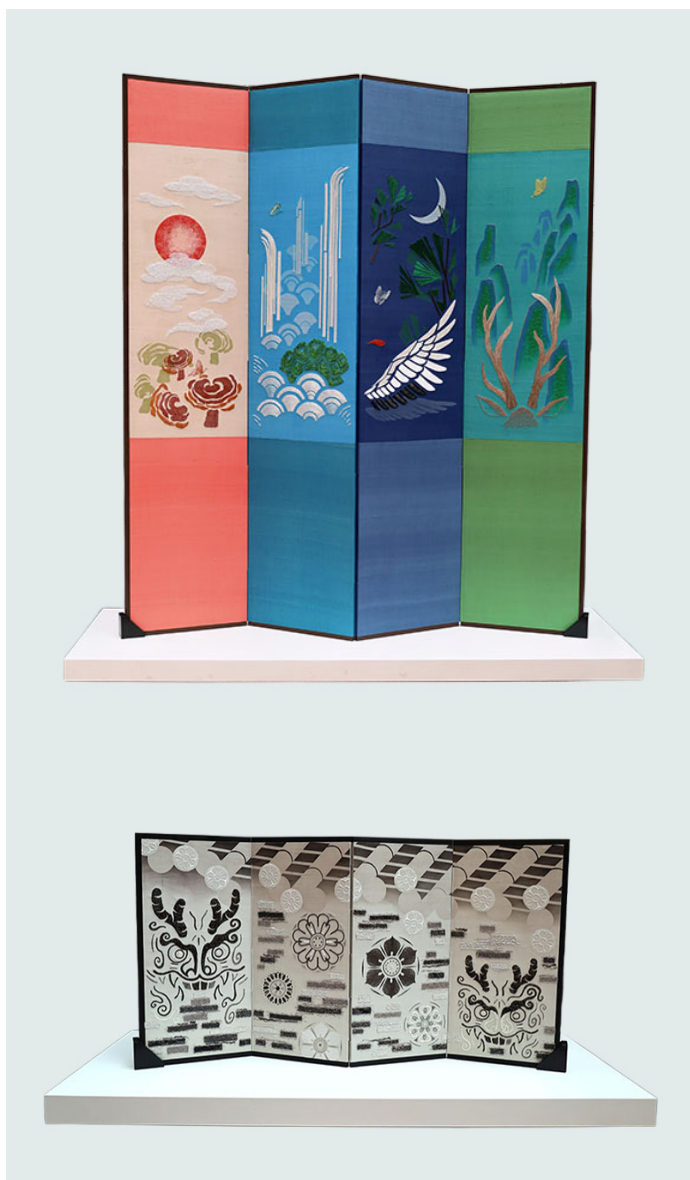


美術専攻 工芸研究領域（刺繍）

YOO Seunghyun

ユ スンヒョン



永遠／守る

日本刺繍、マシン刺繍、顔料着彩、絹糸、ポリエステル糸、絹

永遠／守る

現在、韓国の一般家庭においての屏風の使用が減っている。過去の技術と物が消えていく状況、現代的なデザインを伝統的な屏風を制作してみようと思った。韓国の吉祥模様をモチーフとして使い、伝統を守り続けていくという意味を込めた。

韓国では、刺繍屏風は千年を超える外交礼物として、朝鮮時代(19世紀後半)には西洋に刺繍屏風を多く送った歴史がある。これは刺繍や織物などが近代産業の成果物として、国の技術の発展を紹介する手段としてシカゴ万国博覧会で発表された事に起因する。民間では屏風は置くことによってその場所を飾ることで自分の権威や身分を表すために使用したり、結婚する時に礼物として持っていくもので、韓国人にとって屏風は身近な存在であった。本作品は、空間を作る役割をする屏風を考えて2隻(せき)制作している。180cmの屏風はモチーフとして十長生と蝶を使用した。十長生とは、長く生きる松、亀、鶴、鹿、不老草5種類と、変わらない物としての日、月、水、雲、山5種類全部で10種類の自然物を言う。十長生は韓国では吉祥模様とされ永遠、長寿を意味するものである。蝶は幸せの象徴として日常生活で多く使用されている。

屏風を立てることで、家族の幸せが永遠になることを願う意味を込めて制作した。形態は4曲1隻の伝統的な屏風の形態で、椅子に座って鑑賞する現代の生活環境にあった位置に刺繍画面を配置した。

60cmの屏風は枕屏風で、枕屏風とは枕元に立てる就寝時に使う屏風である。180cmの屏風は、おめでたい家族が集まるときに使用するものとして、この屏風は日常生活使うものとして提案した。一般的には風をよける用途であるが、この作品では寝る時に無防備な状態になるので、寝ている間に悪いものが入ってくることを防ぎ、良いものが出て行くことを止めるという役割を表現した。モチーフの軒丸瓦とは木造建築屋の屋根の瓦の端に使われた瓦で、泥が流れないように防ぐ用途だった。三国時代の軒丸瓦は蓮の花模様(生命の創造と繁栄の象徴)と鬼の顔模様(悪いものを追い払う意味)が多く制作された。瓦は雨水や雪などを防ぐ役割をすることから睡眠中に悪いものを払い、守ってもらう意味を込めて、瓦の模様を枕屏風に使用した。